

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



なごや
ちくさ
WEEKLY

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 〒464 千種区池下一丁目4番18号
井上ビル4F D号
Tel 763-5110
会長 水野民也

No.30 (1982~1983)

MANKIND IS ONE-
Build Bridges of Friendship
Throughout the World

人類はひとつ
世界中に友情の橋をかけよう
1982~83年度RI会長 向笠広次

第30回例会 昭和58年3月15日(火) 晴

◇ “奉仕の理想”

◇ 出席報告

会員 48名 出席 37名
出席率 77.08%

◇ 前回 3月8日(修正出席率) 97.92% make up

秋山君(3/12守山), 安藤君(3/9Seoul, 韓国), 深見君(3/12守山), 河合君(3/9名北), 小林君(3/4北), 日下君(3/11北), 都築君(3/10瑞穂), 山村君(3/12守山)

◇ ビジター紹介 5名

◇ 誕生日祝福

都築君(3/15), 竹内君(3/20), 成田君(3/21)

◇ ニコボックス

大口君(本日卓話させて頂きます), 深見君(事務所移転のお知らせとホームクラブで連続欠席しました), 佐野君(本日卓話させて頂きます), 寺澤君(新遊園地が竣工いたしました), 竹内君(娘が大学入学決まりました), 都築君(誕生日祝), 竹内君(誕生日祝), 成田君(誕生日祝), 尾関君(結婚記念祝), 河合君(結婚記念祝)

◇ 松居幹事報告

1. 次回例会は例会場所を変更し, 星ヶ丘ボウルに於いて職場例会を行いますのでお間違いのない様お願い致します。
2. 例会終了後, トロント国際大会説明会を2F梅の間にて行いますので, 参加頂きます方々はお集り下さい。

◇ 古川副会長挨拶

水野会長が, 全国ボウリング協会の総会に出席のため東京に行っておられますので代って私がおはなしいたします。

「5人のテーブル」という映画の主演俳優のジョン・ボイドが3人の子供と共に来日し, 昨日NHKの6時の社会情報という番組に出ていました。記者会見の席で, 彼はなか

なかいことを言っていました。昨今, 日本の家庭にも, 離婚等のいろんな問題がありますが, この映画は子育てという点で大変に示唆に富むいい作品です。すでにイギリスの王室推薦作品の一つに入っていますし, 来年のアカデミー賞にノミネートされる予定になっています。アメリカではすでに封切されて, 第3週目に入っていますが, 非常に好評です。ぜひ見られることをお勧めします。

次にアベルガレスの「ナポレオン」という映画も, ぜひ御覧になって下さい。この映画は, 私の会社が輸入し, 富士TVの25周年行事として, また資生堂も協賛しています。名古屋は, 来月の2日と3日に, 愛知県体育館で, 東海TVの当番でやることになっています。東京, 大阪ではすでに大成功の評判を得ました。これは幻の名画といわれていましたが, コッポラ父子が独占配給権を得て, 世界中で上映されるわけです。4時間もかかるしかも無声の映画ですが, 50年前の映画とは思えないほどのスピードとスペクタクルがすばらしく, 特に終局場面になると, シネマの70ミリスクリーンが3枚つぎつぎに伸びていき, 圧巻です。80人のオーケストラのフルバンドがアーマン・コッポラの指揮で伴奏することになっており, 人員, 経費の点でとても劇場配給ができないのです。入場料が高いのも当然といえる大傑作です。名古屋のあとは, 札幌, 福岡で上映予定です。映画ファンならきっと大感銘をうけられることでしよう。ぜひ御覧になることをお勧めします。

◇ 講演

“とかげのしっぽと歯の話”

会員 大口 弘和 君

歯周疾患(歯槽のうろう)は, ウ蝕とならんで歯科二大疾患であります。そしてウ蝕で歯を喪失することよりも, 歯周疾患で失うこ

の方がはるかに多いことは、あまり気づかれていないのが現状であります。

近年、歯周疾患は全身的要因で罹患するのではなく、プラーク（食物残渣が歯と歯肉との間に付着したもの）により誘引される宿主側の組織反応（免疫反応）によるものであることがわかってきた。従って、このプラークを歯ブラシなどでコントロール（除去）することが歯周疾患からののがれる唯一の手段であります。もしプラークコントロールが不良の場合は、健康な歯肉は炎症を起し腫脹し、さらに進むと不可逆的な歯周炎（歯槽のうろ）へと発展し、免疫反応過程に作り出される物質の作用（リンホカイン）により歯のまわりの骨が吸収し、歯が喪失するまで骨吸収は休みなく進展するわけです。

免疫という言葉は、自分の体や組織を守るための自己防御という感じがするわけですが、歯の側から一連の反応をみていくと、自己を守るよりも破壊に導いているようにみえます。それはちょうど、トカゲが捕えられたとき自切と呼ばれている自己防衛手段でシッポを切って逃げるのに似ており、シッポに拘泥していたらトカゲの命を危くするというので、まさに歯周疾患に罹患した歯はトカゲのシッポにたとえることができます。免疫反応が生じなければ、体内の他のいろいろな臓器に感染源をばらまくことになり、自然は免疫反応により体全体を守るために歯を脱落させようとすると考えられます。

歯は寿命がきて自然に脱落するものであるとあきらめるよりも、プラークコントロールをしていつまでも自分のものとして守ってゆきたいものであります。

“私と彫金”

会員 佐野 寛 君
私の彫金との出会いは昭和21年、終戦の次の年であります。戦時中工業学校となっていた工芸高校が復活して、私の所属していた金工科も再発足することになりました。新し

く若い先生が来られ新任の挨拶の中で、金属の切れ端に虫を彫ったり木の葉を彫ったりして命を与えようではないかと話されたのが、私の人生を方向付けたように思われます。

学校も戦災にあって何にも無い状態でした



が、焼け跡から道具や銅板・真鍮板を掘り出して手仕事による実習の時間が始まり、彫金の仕事に何時の間にか引き込まれておりました。私は子供の頃から言葉に障害がありまして、何とか喋らないで出来る仕事をと考えておりました。幸いにも学校卒業と同時に安藤七宝店に入社出来、会社にお願ひして金工の仕事をして頂いて彫金への道が開けた訳であります。

彫金は一般に女性のアクセサリのように思われておりますが、これは昭和30年以後、ジュエリー・アクセサリを芸大の彫金科を出た人達が主体となって作り始めたのが、脚光を浴びた為と思われまます。もともと彫金は神社仏閣の金具・祭器・武具・貨幣等の仕事が主なものであります。

私達はパネル・置物・花器等、身のまわりの物を造っております。素材は金・銀・銅・鉄等の他、合金として赤銅・四分一・黒味銅等があり、比較的柔らかな金属を用いております。

私達が仕事を習った先生方の時代は金銀細工が多かったようですが、戦後の工芸運動の中で床の間芸術から会場芸術へと変わり、大作となって銅素材へ主流が変わって来ました。

銅の着色技術は誰も教えてくれず、データもあまり無いところを研究を続け、10年目に薬品調合の間違いから成功したのであります。それを足掛りに紺や黄色を帯びた3種類程の緑色を着ける事が出来るようになり、金銀と組合せて作品を製作している今日この頃です。

◇例会変更のお知らせ

- 名古屋瑞穂RC3/24(木) FSMの為「かすが荘」にて6:00P.Mより
- 東海RC3/26(土) 家族観劇会の為「御園座」にて3:20P.Mより
- 名古屋和合RC4/6(水) FSMの為八事山興正寺にて5:00P.Mより
- 春日井RC4/8(金) 家族会の為4/3(日)湖東三山8:30A.Mより
- 名古屋守山RC4/9(土) 家族会の為養老「豆馬亭」にて3:30P.M都ホテル集合

◇次回例会（3月22日）職場例会

講演“ボウリングの話”

星ヶ丘ボウル・支配人 松崎松夫氏

◇次々回例会（3月29日）

卓話“不動産業あれこれ”

会員 成田 良治 君

卓話“ポールハリスさんが聴いたオルゴール”

会員 新美 敢 君